

COVID-19陽性患者もしくは疑い患者に対する手術時の感染対策Case Report集計結果(8月24日から8月30日回答分)

	症例数	手術	
陽性患者	2	観血的整復術	2

手術室で気管挿管	3	McGrath	3
(喉頭展開1回で挿管)	(2)		
区域麻酔	2		
局所浸潤麻酔	1		

COVID-19疑い患者	4	CABG	1
		開頭術	1
		開腹術	1
		経カテーテル動脈塞栓術	1

PPE	フェイスシールド	3
	ゴーグル	0
	シールド付きマスク	1
	記載なし	2
	N95	4
	サージカルマスク	1
	PAPR(動力付き)	0
	記載なし	1
	手袋2枚	3
	手袋1枚	2
	回答なし	1

事前シミュレーション実施	あり	3
	なし	3

自由記載

準備	マンパワー	多くの看護師、医師の人員が必要で、他業務への影響が大きい。
		搬送通路に人がいないように配慮した。
		麻酔導入時に手術室内の人数を少なくした。
院内、チームの認識		チームで術前カンファランスを行い、治療方針を決定した。

陽性	骨折観血的手術	陽性のため、当院へ転院となった。整形外科からは、抗凝固薬投与(CABG後)、高齢を理由に全身麻酔での管理を申し込まれたが、患者とスタッフのリスクを考慮し区域麻酔とした。抗凝固薬を休薬し、循環器内科、整形外科、麻酔科でカンファランスし、麻酔方法は脊髄くも膜下麻酔とした。
疑い	OPCAB	通常導入後、発熱、酸素化不良を呈し、経過からCOVID疑いと判断して手術を中止した。